

7月定例記者会見要旨

昨年の冷夏と打って変わって、今年は梅雨明けから猛烈な暑さが続いております。

全国で熱中症により病院に搬送された方は、7月16日から22日の1週間で少なくとも2万1千人に達し、そのうち65人が亡くなられているようですので、まさに“災害レベル”の危険な暑さとなっております。

この暑さは8月上旬まで続くそうですので、市民の皆様・記者の皆様には、日中の屋外活動は控え、水分や塩分をこまめに補給するなど、熱中症予防対策を心がけていただきたいと思います。

またこの酷暑の中でも、記録的豪雨で甚大な被害を受けた西日本地域では、行方不明者の捜索や災害からの復旧作業が連日続けられております。

平成で最悪の豪雨災害と言われるこのたびの災害では、15府県で200名以上の方が亡くなられ、いまだに10名ほどの方が行方不明となっております。

多数の尊い命が失われましたことは、誠に痛恨の極みであり、改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りし、御遺族の皆様にお悔やみを申し上げたいと思います。

なお、本市では、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を通じて、本市にいただいたふるさと納税のうち3%をこのたびの豪雨で被害を受けた自治体へ寄附する「被災地支援パートナーシップ」に参加し、ふるさと納税を通じた被災地支援に取り組んでいます。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、こうした厳しい暑さの中ではありますが、今週は金曜日から日曜日にかけて龍ヶ崎の夏の風物詩「八坂神社祇園祭り」が開催されます。

27日昼の「お神輿渡御」から始まり、28日の「りゅうとぴあ音頭パレード」、さらに29日の「撞舞」と、連日の目玉行事に加え、所狭しと立ち並ぶ出店や勇壮なお神輿など、商店街大通りが年に一度の大きな賑わいを見せます。

特に最終日、根町撞舞通りで開催される、国選択・県指定無形民俗文化財の「撞舞」は、伝統の重み・風格を感じさせるとともに、迫力・スリル満点の希少な民俗芸能です。

観客数も年々増加しており、去年は、13,000人を超えるお客様が県内・外からご来場いただきました。今年も多くのお客様にお出でいただけるものと期待しております。

それでは、本日の情報提供を始めさせていただきます。

初めに「龍ヶ崎市 市民防災フェア2018講演会」の開催についてです。

今年は、6月の大阪府北部の地震や、7月豪雨による西日本への被害など、大きな災害が続いておりますが、今や大きな災害は日本全国、どこでも起こりうる状況です。

こうした状況から、防災・減災日本一を目指すべく、今改めて、龍ヶ崎市の過去の災害を振り返るとともに、その記憶を再び胸に刻み、今後起こりうる災害に備えることが重要と考えます。

今年の市民防災フェアは、8月26日の午後1時からの3時間、龍ヶ崎市文化会館の大ホールを会場といたしまして、3部構成の、防災のスペシャリストによる講演会を開催いたします。

第1部の講演会では、気象の専門家として、「NHKニュースおはよう日本」などに出演されている檜山靖洋（ひやまやすひろ）気象予報士にご講演いただき、第2部では常総市の根新田（ねしんでん）町内会の方に、平成27年9月関東・東北豪雨の際に有効であったITを活用した自主防災の取

り組みを紹介していただきます。

そして第3部では、多数の防災食に関する書籍を出版し、テレビにも出演されている、今泉マユ子（いまいずみまゆこ）防災食アドバイザーに、家庭でも無理なく防災食を備えることができる取り組みについてご講演いただきます。

また、同日小ホールでは、災害写真の展示や龍ヶ崎市社会福祉協議会の活動記録資料の展示などを行います。入場は無料でどなたでも参加いただけますので、ぜひ多くの市民の皆様にご参加いただければと考えております。

続いて「非核平和推進事業に係る沖縄への中学生派遣事業」についての情報です。

これまで、本市では、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを伝え、平和の大切さや尊さを後世へ語り続けていくため、非核平和推進事業の一環として、被爆地への市内中学生の派遣事業を実施してまいりました。平成26・27年度は広島へ、平成28・29年度は長崎へ派遣を行ってまいりましたが、今年度は、先の大戦において、数少ない地上戦が繰り広げられた沖縄に派遣することといたしました。

派遣に先立ち、7月30日には派遣される市内各中学校の代表生徒12名の皆さんが、結団式を行い、派遣に向けての決意表明を行いますので、ぜひ取材いただければと考えております。

なお、派遣の日程は8月6日から8日までの3日間で、平和祈念公園、ひめゆりの塔、対馬丸記念館、旧海軍司令部壕などを訪問します。現地では沖縄戦などに関する写真や遺品、防空壕、実際に戦闘があった現地の見学や語り部の講話を通じて、戦争の実態・与えた影響や平和の尊さを学習してもらう予定です。

また派遣終了後は、生徒たちが、各学校での報告会や、市戦没者追悼式での市民向け報告会で、沖縄での体験を発表し、情報の共有を進めていく予定です。

続きまして、地域身体障がい者スポーツ大会の情報です。これは、スポー

ツを通じて身体障がい者の自立と社会参加を促進し、地域住民の障がい者福祉への関心を高めるために、本市及び近隣7市町村が、持ち回りで開催しているもので、今年度は本市の主催で、市総合運動公園「たつのこアリーナ」で開催いたします。

15歳以上の身体障がい者200人が参加する本大会では、パン食い競争や車椅子競争などの個人競技のほか、フライングディスクや輪投げといった団体競技、昼食休憩の時間には障害福祉事業所の利用者によるダンスのアトラクション等も予定しております。

また今回は、来年度の「いきいき茨城ゆめ大会」のオープン競技として、本市で開催する「スポーツ吹き矢」の普及を目的に、競技参加者以外の方も利用できる「スポーツ吹き矢」や「ボッチャ」の体験コーナー設置いたします。

なお、大会運営に関しましては、各市町村の担当者に加え、県立竜ヶ崎第二高等学校や、愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校からの学生ボランティアも参加していただく予定で、幅広い世代、多くの方々が大会運営に関わっていただくことで、冒頭申し上げた目的の達成のみならず、「いきいき茨城ゆめ国体」開催に向けた機運醸成にも期待しているところです。

続きまして、健康マイレージの電子スタンプについての情報です。

昨年12月にスタートしました『タッポくん健幸マイレージ』につきましては、7月24日現在での登録者が789名と、大変好評をいただいております。

『タッポくん健幸マイレージ』では、歩いた歩数に応じた「ウォーキング・ポイント」や生活習慣病健診・特定健診・高齢者健診等での「検診ポイント」を付与してきました。

そして、このたび、市では集団健診受診によるポイント付与の方法として、電子スタンプを新たに加えました。これまでは健診受診後、受診された

方に市役所へお越しいただき、職員がポイントを登録する仕組みでしたが、今後は集団健診受診後に、会場でQRコードを読み込み、電子スタンプを押印すると、その場でポイントが付与されるもので、この取り組みは、健幸マイレージの取り組みを行っている自治体では県内初と聞いております。6月・7月の試行期間を経て、8月から本稼働いたします。

これにより、さらに多くの市民が『タッポくん健幸マイレージ』に登録され、楽しみながら健康とポイントを獲得していただくことで、スポーツ健幸日本一のまちづくりに繋げていきたいと考えております。

以上で、本日の情報提供を終わりとさせていただきます。なお、詳細につきましては、このあと担当から説明させていただきます。